



# 2月すくすくだより

山田町地域子育て支援センター  
(織笠保育園内)  
0193-82-6099



## すくすく広場

**2月 1日(水) 中央コミュニティーセンター和室**  
時間: 10:00~11:45

- ★豆まき会
- ★製作: おにのパンツはどんなパンツ!?
- ★手作り玩具: おにの金棒でおどろう。



**2月22日(水) 中央コミュニティーセンター和室**  
時間: 10:00~

- ★ひなまつり会
- ★製作: おひなさまを作ろう
- ★お誕生会: 2月生まれのお友だちをお祝いしましょう。  
写真入りお誕生カードをプレゼント



## 赤ちゃんランド

**2月 8日(水) 中央コミュニティーセンター和室**  
時間: 10:00~11:30

- ★マママッサージ ★親子のふれあい遊び ★絵本の読み聞かせ
- ★離乳食レシピプレゼント ★ママの製作: バレンタインカップケーキフレーム
- ★育児講話: 「卒乳(断乳)・卒ミルク・牛乳への移行について」  
講話: 山田町役場 保健師 佐々木 裕子氏

## ワイワイキッズ

**月曜日~金曜日(祝日は除く) 10:00~**  
※子育て支援情報の日程表をご覧ください。

**山田町地域子育て支援センター室(織笠保育園内)**

(国道から織笠ローソンを曲がり、織笠高台団地へ向けて左折して直進)

- ★おもちゃいっぱい支援センター室や芝生の園庭と大型遊具。  
織笠保育園のお友だちと一緒に遊べる日もあります。

### ☆2月のうたあそび☆

#### ♪おでんちゃん♪

- ①おでんちゃん ハッ! おでんちゃん ハッ!  
でんでんでん でんでんでん おでんちゃん ハッ!  
ちくわ 大根 たまご もちきんちゃく~
- ②おでんちゃん ハッ! おでんちゃん ハッ!  
でんでんでん でんでんでん おでんちゃん ハッ!  
しらたき はんぺん ウインナ~ さつまあげ~

### ☆支援センター利用のおやくそく☆

- ☆お子さんが遊ばれる際には、目を離さず危険のないようご配慮願います。
- ☆遊んだおもちゃはきちんと片付けましょう。
- ☆病後の利用は回復の様子を見ながらお願いします。
- ☆オムツ交換の際は、おむつマット(タオル)をご用意ください。
- ☆親子の水分補給(麦茶・水など)は各自ご用意ください。  
それ以外のおやつやジュース、お弁当等はご遠慮ください。
- ★支援センターでは、遊具・玩具等は毎日消毒対応しています。

★ワイワイキッズでゆきあそび★  
ワイワイキッズ(午前中)で、雪が積もった園庭で  
ゆきあそびを楽しみませんか?  
ゆきあそびができるスノーウェア・帽子・手袋・  
長靴(スノーブーツ)を用意して来てね。  
お着替えも忘れずに・・・



# だだこね・長泣き・怒る・・・葛藤への対応

自分の主張が通らなかったとき、子どもは場所をわきまえずにだだをこねたり、泣きわめいたりすることがあります。おとなからは「わがまま」に見えるこの行動には、どのような意味があるのだろうか。また、子どもの「だだこね」や「長泣き」に対して大人はどのようにかかわったらよいのだろうか。

## ★葛藤による、だだこね・長泣きは自我が育っている証★

子どもの「だだこね」や「長泣き」は、自我が芽生えて自己主張が始まる1歳半から2歳ごろに多く見られます。「大好きな大人は、自分のことをちゃんとわかってくれている【つもり】になっています。そのため自分の要求にこたえてもらえないと、「どうしてわかってくれないの?」という気持ちになり、糸がもつれるように心がこんがらがります。これが【葛藤】です。自分の思い通りにならないと葛藤が起こり、子どもはだだこねや長泣きすることで心の混乱を表現します。

自分の主張が通らないからと、泣いたり騒いだりする自分本位な子どもの行動は、自我が育ち、自己主張ができるようになってきた証といえます。

## ★自己主張とわがままの違い★

子どもが自分の思いを訴えたとき、まわりの人が困っていることがわかって自分の思いを押し通そうとする行為は、自己主張ではなく【わがまま】になります。なぜならば、「人はどうなっても自分さえよければいい」という思いを通すことになってしまうからです。しかし、子どもには、自分の主張が他人の迷惑になるかどうかの判断はまだむずかしいため、おとなは子どもが主張した時にその主張を受け入れてよいかどうかを吟味しつつ、ダメなときはなぜ主張を受け入れられないのかという理由を伝えることが大切です。

## ★おとなは子どもを信じて待つことが大切★

子どもの主張とおとなの要求が食い違ったとき「なぜおとなの要求どおりにしないといけないの?」と、子どもによっては長い時間泣きわめくこともあります。おとなはできるだけ早く泣きやませたいと思いがちですが、無理に泣きやませようと感情にふたをしてしまうと、子どもは自分の気持ちがわからなくなり、ますます長引いてしまいます。

葛藤によるだだこねや長泣きを静めるためには、まず泣いているのか、何を怒っているのかという理由をことばにして、子どもの気持ちをわかってあげることが大切です。そして「つらいよね、悲しいよね」と子どもの気持ちに寄り添い、「泣きたかったら泣いていいよ」と泣くことを許容し、子どもが気持ちを切り替えて葛藤を乗り越えるまで待つことが大切です。

## ★子どもの葛藤に、おとなはどうかかわる?★

### 信じて待つ

どうにもならない自分の気持ちを怒りや長泣きで吐き出すことは大切。おとなは「思い通りにならなくてつらいね」と、子どもの気持ちをことばにして、子どもが自分でどうするかを決めるのを待つ。



### 見守る

火がついたように泣いていた子どもも、だんだんと「いつまでも泣いていても仕方ない」「おとなも自分の気持ちをわかってきている」と思えるようになり、落ち着いてくる。時間はかかるが、泣くことを否定しないで見守る。



### 認める

泣きわめいて気持ちがおさまった子どもは、「わかったよ」と自分で気持ちを切り替えられるようになる。大人は「自分で決められたね」と子どもの行動を認めることで、子どもは「思い通りにならないことがあっても、がまんできる」「自分で乗り越えられる」と自律心が育つ。

